

風しんにご注意ください！

風しんは 2013 年、関東地方を中心に全国で 14,000 人を超える患者が報告され 32 人の先天性風しん症候群の児の出生が報告されました。その後、患者数は 2017 年までは減少していましたが感染が拡大し、2019 年には約 2,300 人の患者が報告されています。風しんは春から初夏にかけて流行するため、注意が必要です。

「風しん」とは？

1. 主な症状：①発熱（38 から 39℃） ②小紅斑や紅色丘疹 ③リンパ節腫脹
2. 感染経路：患者のくしゃみや咳によって飛沫感染します。
3. 潜伏期間：感染から 14～21 日

子どもの場合は、ほとんど軽くすみますが、大人が感染するとまれに重症化することがあります。

⚠ 妊婦が妊娠 20 週頃までに感染すると、生まれてくる赤ちゃんが白内障・先天性心疾患・難聴を特徴とする、先天性風しん症候群を発症することがあります。

妊婦さんへの風しん感染を防ぎましょう！

○ 妊娠中の女性は、風しんの予防接種を受けることができません。

★ 妊婦は、妊娠初期の妊婦健診で風しんの抗体検査を実施します。

抗体価の低い場合、妊娠中は風しんの予防接種ができないため、無用な外出を控え、感染予防をしてください。出産後、できるだけ早く任意での風しんの予防接種をお勧めします。(有料)

＜妊婦の夫、子ども、その他同居の家族の方へ＞

○ 風しんの感染予防に、「予防接種」をご検討ください。

☆ 風しんに罹ったことがない方、予防接種を受けたことがない方、風しん抗体が陽性と確認できていない方は、できるだけ早く任意での予防接種をお勧めします。(有料)

☆ 1 歳児や年長児（小学校就学 1 年前）の子どもさんは、麻しん風しん混合ワクチン（MR ワクチン）の「定期予防接種」の対象年齢ですので、必ず予防接種を受けてください。(無料)

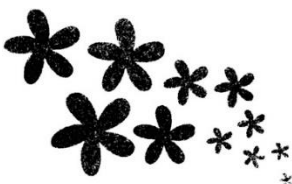
○ 予防接種の必要性は、抗体検査で分かります。

★ 『風しん抗体価の低い妊婦の配偶者など同居の家族の方』は、県内の指定医療機関で風しん抗体検査を無料で受けることができます（※ただし、風しんの抗体価が高い方は除きます。）
検査の結果、抗体価が低い場合は任意での予防接種をお勧めします。(有料)

★ 令和 7 年 3 月 31 日までに限り、国の風しんの追加的対策に伴い『1962（昭和 37）年 4 月 2 日～1979（昭和 54）年 4 月 1 日生まれの男性』は、無料で風しんの抗体検査を受けることができ、その結果風しんの抗体価が低い場合には風しんの予防接種を無料で受けることができます。

無料で受けていただくためには、クーポン券が必要となります。

詳しくは、松山市ホームページ(<http://www.city.matsuyama.ehime.jp/>)をご覧ください。



＜お問い合わせ＞

松山市保健所 保健予防課 感染症対策担当
電話 911-1815